

令和7年がスタート!

明るく活気ある1年になることを願って!

新年会、餅つき、歳の神など新年の行事が続きます!
人と人とのつながりと伝統や風習が継続されています!
小谷村の「地域力」を大事にしたいですね!

新年のごあいさつ②

12月定例会議決・承認結果③

一般質問④～⑪

『今年の希望』こんな村になってほしい!⑫～⑬

新春インタビュー『選ばれる観光地となるために』...⑭～⑮

議会活動報告・編集後記⑯

《一般質問》

動画配信

はじめました!

 YouTube

新年のごあいさつ

宮澤 正廣



小谷村の皆様には新年を健やかに

お迎えのこととお慶び申し上げます。



年頭にあたり、小谷村議会を代表いたしまして謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

私は、昨年5月の臨時会において、議員各位のご推挙をいただき、議長という大役を仰せつかりました。その職責の重さを認識しつつ、公平公正な議会運営を目指して、微力ではございますが、誠心誠意努めてまいりました。

新年を迎えるにあたり、あらためて、村民の皆さん

のご指導とご協力に對して、感謝とお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、小谷村の観光産業については、新型コロナウイルス感染症の収束に伴いインバウンド客の訪日が増速し、スキー場では5年ぶりの賑やかなシーズンでありました。また、暦では3連休が多かったこと、天候に恵まれたことも幸いし、グリーンシーズンも好調であった1年でした。

しかしながら加速する円安などの影響もあり、原油や原材料、食料価格の高騰が生活へ大きな負担をかけている状況であり、今後とも物価高の傾向が続くことが

予想されます。

そのような中で、国道148号雨中バイパス工事が順調にすすんでおり、本年度中の完成を目指すとのこと。長年、雨中地区内の通行に課題がありましたが、新バイパスには安全確保の面で大いに期待できます。国道148号については、まだまだ危険箇所が多いため、安全な道路環境の整備について国・県へお願いし、促進の立場で活動していきます。

本年も、さまざまな村政課題の解決に向け、活発な議論を重ねるとともに、公正

で活力ある開かれた議会運営を図り、村民の皆様の声、を村政に反映させるため、誠心誠意尽くしてまいります。

結びに、皆様にとって、希望に満ちた幸せな年となりますよう心から

お祈り申し上げます、新年のあいさついたします。



地方自治の振興に労力



宮澤正廣議長が表彰

令和6年10月、小谷村議会の宮澤正廣議長が、長野県町村議会議長会より、長年の自治振興、議会運営への功労が認められ、自治功労者表彰を受けました。

「すぐく光栄である」と語る一方、「村の発展のためにさらに尽力しなければ」とのことです。

12月定例会承認・議決結果

◇ 12月定例会 承認・議決結果

番号	件 名	審 議 結 果
報第16号	令和6年度小谷村一般会計補正予算（第4号）の専決処分報告	承 認
議案第87号	令和6年度小谷村一般会計補正予算（第5号）	可 決
議案第88号	令和6年度小谷村国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	可 決
議案第89号	令和6年度小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算（第3号）	可 決
議案第90号	令和6年度小谷村後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	可 決
議案第91号	令和6年度小谷村簡易水道事業会計補正予算（第3号）	可 決
議案第92号	令和6年度小谷村下水道事業会計補正予算（第1号）	可 決
議案第93号	北アルプス広域連合規約の変更について	可 決
議案第94号	小谷村一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	可 決
議案第95号	小谷村特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について	可 決
議案第96号	小谷村議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	可 決
議案第97号	令和6年度小谷村一般会計補正予算（第6号）	可 決
議案第98号	令和6年度小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算（第4号）	可 決

◇ 12月定例会 請願・陳情

番号	件 名	審 議 結 果
6 請第15号	児童・生徒の通学路等の安全確保についての陳情	採 択
6 請第16号	2000年基準前の新耐震基準で建てられた木造住宅を加えた耐震化助成制度の創設・拡充についての陳情書	趣旨採択
6 請第17号	建築士事務所賠償責任保険への加入についての陳情書	趣旨採択
6 請第18号	価格による入札方式における最低制限価格等の引上げと入札方式に偏らない方式における適正価格の設定についての陳情書	趣旨採択
6 請第19号	業務報酬基準の準拠と業務内容の明確化についての陳情書	趣旨採択
6 請第20号	持続可能な学校の実現をめざす陳情書	採 択
6 請第21号	私立高等学校に対する公費助成をお願いする陳情書	採 択

◇ 継続付託されている請願等

番号	件 名	審 議 結 果
6 請第10号	直営除雪オペレーター業務に関する要望書	趣旨採択



あいざわ みのる
相澤 稔 議員

問 雨中月岡バイパスの 開通時期は

答 令和8年春の開通を目指して 工事が進んでいる

雨中月岡バイパスに ついて

問 バイパスの供用開始の時期は何時か。又今後予定されている工事の内容は。

答 村長 今年4月の住民説明会の折、令和8年春の供用開始を目標に工事を進めているとのことであった。現在進めている工事内容については毎月の「広報おたり」や国道関係の「工事だより」でお知らせしている。残る工事はトンネル内の非常用施設の設置、橋梁と雨中南トンネル間の盛り土工事、バイパス起終点部の白馬、糸魚川側の現道との取付道路工事等である。

問 手違いで工事が大幅に遅れたうえに事業費も増加したと聞く。地元も大きな協力をしてきた。開通時期が曖昧だ。一日も早く詳細な内容を住民に知らせるよう県に積極的に働

き掛けするべきだ。
答 村長 早期の開通を望んでおり、常に要望している。働き掛けを続け確定すれば地元を示す。
建設水道課長 県は令和8年春としか伝えてきていない。今冬の工事の進捗状況によっては詳細、具体的にお示しできるものと考えている。

問 南小谷駅南側の現在の迂回道は狭いうえにカーブがきつい。特に冬期の安全対策についてどのように捉えているか。

答 建設水道課長 危険性は認識している。道路管理者には対策を逐次伝えている。

問 糸魚川方面からバイパス経由で南小谷駅に進入できるか。開通後の交通の動線を把握しているか。わかていれば周知を。

答 建設水道課長 具体的な説明は受けていない。説明があったらその都度お知らせする。

バイパス開通後の現道の維持管理は

問 開通後は村道に移管されるとの情報だが、引き続き県が管理した例はあるか。

答 村長 旧道の扱いについては地元自治体に管理を移管し、県が管理を継続した例はないとのことであるが、高規格道路との関連で同様事例が生じる自治体もあるので連携して要望を続けるが厳しい状況にある。

問 現道沿いには公共施設や利用者が多数訪れる施設がある。無散水融雪設備もある。現道が村へ移管された場合、管理していただけるのか。

答 建設水道課長 高度な管理が必要な道であり県の引続きの管理を強く要望していく。高規格道路の一環として関係市町村と協議し取り組んでいく。

JR南小谷駅周辺の整備について

問 JR南小谷駅周辺の整備計画はあるか。

答 村長 現時点では白紙の状態である。踏切周辺の村道はバイパス開通後整備に入る。

問 駅周辺には食事をとる場所がない。バイパス高架下を利用して神奈川県S市にあるような自動販売機群の設置はどうか。アイディア次第で観光スポットになることも。

答 村長 駅前周辺の整備については地域も交えて協議していく。場合によってはJRにも加わっていたら。



工事が進む雨中月岡バイパス

動画はこちらから



問 民間企業への住宅建設支援 来年度着手できるのか

答 しっかりとした制度設計が必要



しばた ゆうぞう 議員
柴田 友造

特色ある地場産業の 振興について

問

そば圃場は水張りをしないとい水田活用直接支払交付金を受けられない。困難な場合の支援はあるのか。

答

村長 そばは大切な村の特産品の一つとして今後も一定の収量確保は必要であり、JAなどとも協議も行いながら、村独自の転作支援も検討する必要がある。

問

山菜・キノコ・キハダ・山ブドウなどの生産状況と現状の支援及び特産物の振興に対して、村が行っていくべき取り組みは。

答

村長 生産者の高齢化などにより出荷量の減少が懸念される。単なる金銭的な支援のみならず、将来的な人材確保・育成などの支援が必要と考える。

問

キノコ・原木マイタケの補助金の見直し及

答

雪中キャベツの苗購入も補助対象にできないか。観光地域振興課長 価格上昇については承知している。支援できるか検討する。



村内に点在するそば畑

問

昭和50年代当時、キハダの全国生産量の半数が小谷産であったと言われている。日本一のキハダ生産地になるような先を見据えた取り組みが必要ではないか。

答

観光地域振興課長 先を見据えた計画は大事。キハダ生産組合と現状を共有しながら考えたい。

問

ナラ枯れ・キハダなどの情報を掲載している「小谷村森林情報かわら版」



小谷村に適している原木マイタケ

答

観光地域振興課長 観光地域振興課長 周知することは良いことなので考える。

問

キノコ等栽培にホダ木は必要不可欠だが村内での調達が困難。杉の伐採を行い、跡地に広葉樹

おたり森林情報かわら版

今年度、小谷村保育園の年長のゆり組の子どもたちは、森や木のことを現地へ行って体験しながら学んでいます。6月は、キノコの駒打ちや山へ行ってイタヤカエデの子どもを探ってきて苗木作り、そして8月はキハダを剥ぎました。

小谷村保育園ゆり組、キハダを剥ぐ



昨年度まで発行されていた「森林情報かわら版」

答

観光地域振興課長 森林環境譲与税でも杉の伐採も認められている内容なので研究する。

問

民間賃貸住宅建設費補助に土地の購入とリノベーション補助も取り込み、来年度着手できるのか。

答

村長 しっかりとした制度設計の基、進めないといけない。

移住定住・

空き家について



たはら 富美子 議員
田原富美子 議員

問 シルバー人材センターの活性化は

答 シルバー世代が活躍することで村は元気になる

動画はこちらから



高齢者の生活不安の解消

問

高齢化が進み一人暮らしの方や免許返納をする方が増えている。生活する中で出かける時の移動手段の不安が本人にも家族にもあり、免許返納をためらうことになる。デマンドタクシーと社協で行っている福祉有償運送の現状と課題は。

答

村長 デマンドタクシーはここ数年少しずつ運行形態を変えている。運行会社を2社にし、平日は村内全域で利用可能とした。

問

福祉有償運送の利用者登録は27名で、運転者は13名である。登録車両は5台あるが、他の業務で登録車両を利用することもあるため、時間的な制約もある。

答

住民福祉課長 包括支援センターで利用の支援を行っている。今のところ、利用待機者はいない。福祉有償運送について改善点、満足度など利用者の意見などを関係者でどう協議をしているか。

問

住民福祉課長 必要に応じて、運行主体と協議をしていく。



村内全域を運行するデマンドタクシー

問

デマンドタクシー利用者で、40分待たされていたとの意見があった。村民が利用しやすい運行のための対応は。

答

観光地域振興課長 40分待たされたとの情報は把握していない。不備な点などは、事業者から聞き取りし改善していきたい。すべての要望に対応出来ないが努力する。

地域社会で活躍できる仕組み

問

人出不足の中シニア世代の経験や知識・技術は大変貴重である。高齢者の活躍の場としてのシルバー人材センターの運営状況と人材確保の現状は。

答

村長 シルバー人材センターの支援登録者は、小谷村では男性8名、女性2名計10名であり、平均年齢79・6歳である。

仕事内容は役場の宿日直、塩水・役場・診療所等のトイレ掃除の他に、草刈り・墓掃除・雪かきなども頼まれる。課題は女性会員が少なく、人材確保のため、募集チラシの配布や既存会

問

員による勧誘も行っている。シルバー人材センター事業を更に活性化させる必要があるが、その意思はあるか。

答

村長 人手不足と高齢化がさらに進んでいく社会であり、高齢者の活動や取り組みは必要である。

問

シルバー世代の皆さんが活躍することは、村を元気にするものと考えている。現在の状況は、会員登録が少なく、限られた仕事しかできない。

答

今以上に、シルバー人材の活動に目を向け、広く広報してもらいたい。

村長 人材確保に向けて更に発信していきたい。



動画はこちらから



問 マイナ保険証には不安 村民へ親切な対応を

答 不安解消に向けて 情報提供や対応を努力する



そねはらけいこ 議員
曾根原恵子

公共施設維持管理に おける重点政策は

問 村有施設の老朽化の状況は。

答 村長 4割については改修や修繕が終わっている。

問 築30年を超える施設の更新や修繕状況は。

答 村長 小谷中学校・柵池体育館のLED化、教員住宅の屋根塗装・風吹荘・雨飾荘のボイラー改修など、61施設中45施設を実施。

問 福祉の拠点「せせらぎ」の維持管理のための計画は。

答 村長 現状維持のための改修・修繕を計画的に進める。

問 サンティンおたりは保養施設として今後も維持していく施設であるが。

答 村長 「今後の在り方」を含め検討中だ。

問 村営住宅などハコをつくるだけでなく、居住環境の整備として政策が必要ではないか。

答 村長 民間企業などの協力も含め必要なことである。

問 沓掛古民家、地域で共有されてきた価値観が生かされる運営に。

答 観光地域振興課長 指定管理者と協議していく。



公共施設である「おたりつぐら」での利用者

暮らしを守るための 予算編成を

問 国民健康保険加入世帯について、18歳以下の均等割保険料の減免の考えは。

答 村長 国保運営協議会で慎重に判断する。

問 学校給食費完全無償化を行わない理由は。

答 村長 まずは国の動向を注視していく。

問 加齢性難聴の補聴器購入補助制度の制定はできないか。

答 住民福祉課長 他市町村の導入事例・交付金の調査研究・検討をする。

マイナ保険証移行に伴う対応は

問 育児や介護、また障がいを抱えている方にとっては、保険証のデジタル化は早急すぎでは。

答 村長 苦慮しているが、不安解消に努める。



マイナカード導入により、窓口業務がより煩雑化

問 安定したシステムになるまで利用を見合わせたい場合、マイナ保険証の「登録解除」はできるのか。

答 住民福祉課長 役場窓口で対応可能である。

問 マイナ保険証は個人情報情報の漏洩が危惧される。データ保護規制のないまま移行を進めている。

答 住民福祉課長 厚労省の広報はメリットを強調しているが、フラットな情報提供に務めてほしい。

問 住民福祉課長 村民の立場での広報に努める。



ふかさわ 深澤 ひでき 英喜 議員

問 停止線や道路白線の引き直しの基準は

答 地域の要望にそって実施する

村内の生活道路整備について

令和6年、村内道路の改修工事が特に集中した年だったと感じる。整備状況について伺う。

問 国道雨中月岡バイパス工事の開通時期はいつになるのか。計画されている月岡橋の新設について工事計画の概要は。

答 村長 雨中・月岡バイパスの供用開始時期は、具体的な時期の見通しが立った段階で、速やかに情報提供をしていく。

問 「塩水工区」の改良計画に含まれる橋梁月岡橋新設については、現状の橋の南側へ新たに架設される計画となっている。

答 村長 県道の整備計画と、白線ライン引きについて、実施時期及び実施箇所の基準は。交差点等の停止ラインについても伺う。

問 村道 県道の整備では、現在奉納中土停

答 村長 県道の整備では、現在奉納中土停

車場線「曾田地籍」で道路改良事業が計画され実施中である。

ライン引きの時期や場所については、定期的な道路パトロールの結果や、市町村からの要望を加味して判断されているものと理解している。

また、交差点における停止線等は、大町警察署へ要望している。

問 村道の路面の損傷や附設する側溝の破損

答 村長 村道の路面や側溝等の修繕については、日々の道路パトロールや集落要望を加味し、優先順位を付けて実施している。

大規模な路面修繕や道路改良事業については、現在、令和8年度から実施する国庫補助事業の採択申請に向けて準備を進めている。

村道の（白線）外側線が消えてしまっている路線に

については、観光路線等交通量の多い路線から、順次進めていく。

交差点部の停止線の対応についても、公安委員会と情報共有を行いながら、安全な環境整備に向けた対応をしていく。



停止線など必要に応じて対応

移動村長室について

問 移動村長室での懇談を踏まえ、その成果をどう評価しているのか。

答 村長 すぐに実行すべきことは、関係機関などに直接話をし、実際に進んでいることがある。

懇談することは成果であると捉えている。

問 懇談会時にすぐに回答できなかった案件の対処方法は。

答 村長 課題などは各担当課へ伝達し、対応などを指示している。

問 懇談の中での意見で、村長が次年度実施意向である事業は。

答 村長 村民一斉での外来種駆除、東山天空回廊に伴う地元説明会、移住促進住宅の建設、新たな住環境整備、各種文化財の整理などが実施意向である。



村長と対談できる移動村長室

動画はこちらから



問 災害時の避難所マニュアル・観光防災マニュアルの進捗状況は

答 年度内の完成の見込みである



しみず ひでお 清水 秀雄 議員

問 小谷村避難所運営マニュアルの見直し、外国人観光客等の防災マニュアル作成における進捗状況は。

答 村長 小谷村地域防災計画は庁内での見直しに伴う内容確認が済み、法令と計画案との整合確認を行っている。小谷村避難所運営マニュアルも年度内完成の見込みである。観光客対応のマニュアルについては、安全な避難所へ誘導し、その後、無事に帰宅できるようなマニュアルを策定する必要があるので原案作りに着手している。早期策定に努める。

問 停電時の避難所で活用する石油ストーブの配備状況は。

答 村長 停電時でも使用できる石油ストーブを今年度は10台購入し指定避難所に配備した。乾電池やライターが不要で着火できる防災備蓄品として推奨されている機種である。

問 9箇所の指定避難所それぞれ大きさが異なる。各避難所1台の配備で対応できるのか。

答 総務課長 ジェットヒーター等も検討する。

問 配備した石油ストーブで使用する灯油の調達は。

答 総務課長 避難所のホームタンクを利用していただきたい。また携行缶タイプも配備したい。



避難所に配備された石油ストーブ

問 新たに備蓄倉庫を整備する計画があったが、現在の進捗状況は。

答 村長 整備候補地を役場敷地内とし、コ

スト・工期面から「コンテナ型防災倉庫」の方向で検討している。国、県の補助事業導入を目指し早期の整備に努める。

問 コンテナ型防災倉庫の大きさは。

答 総務課長 小谷小学校体育館横にあるコンテナ位の大きさを検討している。

問 災害時のドローン輸送について実用化の検討は。

答 村長 実証実験の結果、山間地における普及・実用化には至っていない。技術開発・技術進歩・コストの状況を見極めながら検討する。

問 小谷村建築耐震改修促進事業における補助率変更や除却費用を追加する交付要綱の改正を行うことを意見していたが現在の進捗状況は。

答 村長 地震に対する建築物の耐震診断・

耐震改修工事の経費に対し補助金を交付するものである。市町村に対し補助率を拡充していることから一部改正要綱案を作成している。令和7年4月から適用できるように進めている。

問 耐震・改修事業を実施した件数は。

答 総務課長 平成17年から令和5年まで住宅の耐震診断52件・耐震改修3件である。



小谷小学校へ設置されているコンテナ型備蓄倉庫



よこさわ たくみ
横澤 匠 議員

問 マナー条例の制定に向けての 対策・進捗は

答 まだ進んでいないが条例化は 必要

安心・安全で持続可能な、観光促進に向けた環境整備について

問 治安に対する不安の声が多く聞かれる状況のなか、従前より意見している、マナー条例の制定についての進捗状況は。

答 村長 マナー条例の制定は、まだ進められていない状況である。いずれ、条例化も必要だと思う。まずは日本のマナーや常識を案内する事が有効だ。シーズン途中でもチラシ等で周知できるよう対応したい。

問 地域住民からは観光地での治安に対する不安の声が多く聞かれる。行政として対策は。

答 観光地域振興課長 マナーの課題等については、村内在住の外国人等も含めて関係者や地区住民と懇談して対策を検討したい。

問 食事難民等の課題解決に向けた対策は進めているのか。

答 村長 泊食分離（素泊まり）の宿泊施設が増えていることは聞いている。昨年度は送迎付きで食事を提供する「ガスPOTARI」に取り組んだ経過もある。今シーズンはナイトバスの内容を充実させることで課題解決を計画している。

問 昨年実施した「ガスPOTARI」を継続しない理由は。

答 観光地域振興課長 システムの契約を更新する必要がある、多額の費用がかかる。また課題も多く同じ形態では考えていない。

問 地域や観光に対する課題対策を掘り起こすため、村内に居住している外国人事業者等とのディ

スカッションの場を計画しているとのことだが、現在の実施状況は。

答 観光地域振興課長 手が回らず実施できていない。

問 2次交通対策について、行政サイドによる課題解決に向けた取り組み状況は。

答 村長 村では南小谷駅をハブとして村営バスによるダイヤを組んでいるが、完全に網羅はできない。



外国人観光客の増加に伴う食事難民の対応が求められる

ていない。課題解決には至っていないのが現状。

問 白馬村は近い将来、日本版ライドシェア導入を検討していると聞いているが、小谷村は導入の考えは。

答 観光地域振興課長 今の段階では、考えていない。

【日本版ライドシェアとは】タクシーが不足している地域、時期、時間帯に一般ドライバーが自家用車を使って有償で乗客を送迎できるシステム。タクシー事業者が運行主体となるケースと、住民の移動が困難になった地域に適用される自家用車有償輸送（自治体ライドシェア）の2つのタイプがある。

動画はこちらから





問

6年間の税込増加の施策は

答

移住促進など
人口増対策を実施



よしおか ひさと 議員

収支バランスの とれた施策

問

村政運営、収入の確保と限られた予算の支出が課題であり、支出が増加する中、収支のバランスを保ちつつ、経済対策も実践していくことに対して今後の行政施策を伺う。

答

村長 人件費や物件費等の増加等が見込まれ、財政運営は厳しさを増している状況。新年度予算では根拠に基づいた取り組みを踏まえ、スクラップ＆ビルトを原則とするよう職員に指示している。

歳入で一番多い地方交付税は今後人口減少が進み、8年度以降は更なる減額交付も予想される。ふるさと応援寄付金を活用する事業においても、近年の寄付額の減少傾向を考慮すると、事業の見直しは必要である。

新たな視点に立ち、事業の精査、業務の効率化による経費の削減を行うこと、さらに、



白馬高校の支援費用も大きな課題である

問

今回の人事院勧告での人件費の増額見込みと、本年度のふるさと納税の見込み額は。

答

総務課長 勧告に伴う人件費は会計年度職員を含め4000万円超の増。ふるさと納税額は8000万円見込んでいるが、積立額が現段階では未定。

問

村長就任の6年間で実施した税込増加の施策は。

答

村長 移住促進住宅を設置するなど、人口増対策を努力して行った。

古民家空き家活用

問

現時点での空家の軒数と移住に伴う問い合わせ状況は。

答

村長 5年度調査で空き家約205軒。内、115軒は使用不可の状態。

残り90軒も半分は補修が必要。問い合わせ状況は空き家バンクの相談で今年度で80軒。一人で複数物件の相談もある。

問

建設事業者等の新規採用者の住まいに苦慮するとの意見に対して解消の考えはあるか。

答

村長 商工会でも同様の話題が出たところ。現在、商工会を通じて社員寮に関するアン



古木を使用した道の駅あたり

ケートを行っている。その結果を見ながら判断することになると思うが、移住に繋がる施策になればと思う。

参考：議員連絡協議会（糸魚川市、白馬村、当村）で、古民家の古木の再利用事業などを手掛ける長野市の(株)山翠舎 山上浩明社長の講演会を行った際に、小谷村に対して次の3つの提案があった。

①シンボルとなる建物を建てる。
②茅葺き屋根の古民家の宿を作る。

③古民家活用のワークショップを開催し議論していく。

こんな村に なってほしい

令和7年がスタートしました！村民
のみなさまに「今年の村への希望」
を語っていただきました！



沖中繁松さん(102 歳)

人口増やしたい！
人口減るのはさみしい！



猪又 孝さん(10 代)

若い人の移住者が増えて
ほしい！



斉藤汐季さん(20 代)

村内に働くところが
もっとあればいいな！



猪又 実さん(40 代)

仲の良い村に！



松田 厚さん(70 代)

高齢者が孤独にならず、
明るく穏やかに過ごせる
といいですね！



**西田 真さん(50 代)
容子さん(50 代)**

耕作放棄にならないよう
に頑張っています。
農地を大事に！



**檜木晴郎さん(60 代)
宏美さん(60 代)**

若い就農者が増えると
いいですね！



中川敏子さん(80 代)

免許を返納した後の生活が
不安。高齢者が安心して
住める環境を！



近江杏子さん(40 代)

道の駅に子どもが遊べる
公園を作してほしい！



植田さつきさん(40 代)

移住したばかりですが、
みんな親切でうれしい。
やさしい村に！



鷺澤 健さん(20 代)

同世代(同級生)が地元
に戻って来れるような村
になってほしい！



松澤岳志さん(40代)

自然を大切に！そして
助け合いのできる
村になってほしい！



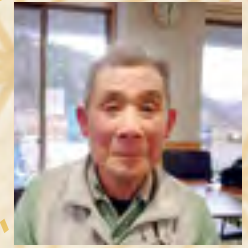
北村真弓さん (60代)

人と人のつながりが大切。
お金じゃ買えないね！



平林 賢さん (30代)

住んで良し、訪れて良しの
村にしてほしい！



山田和男さん (80代)

温暖化で農作物に影響が
でている。
環境を考えることを！



山岸誠一さん(60代)

ヤギとの生活で健康に
なりました！地域活動を
応援してもらいたい！



川崎光克さん(30代)

ガソリン代、
安くなりませんか？
村民にやさしい村に！



大日方冬樹さん (30代)

ありのままの自然を
大切にできる村を！



小形岳洋さん (30代)

小谷の情報や知恵を発信し、
コミュニティが盛んな村に！



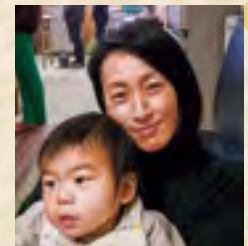
松田朋之さん(50代)

若者が住みやすい
住環境が整っている村に
なってほしい！



小林智和さん(50代)

卵や織物の生産をしています。
小谷村の暮らしが楽しい。
みんなが楽しく暮らせる村に！



井上いずみさん (40代)

4人の子どもの育てる母
です。父親も子育て参加
しやすい村に！



**ヴィクトリー朋子さん
(50代)**

住民も訪れる人も、みんな
ハッピーな地域とともに
ある観光を望みます！



森山理功さん (40代)

小谷に住みたい、暮らしたい
人たくさんいます。
住宅事情が悪いです。
何とかしてください！



森山沙耶花さん (40代)

中学生の息子、スポーツ頑張っ
ています。子ども達がいろい
ろな体験や経験ができる環境が
欲しいです！

世界水準の オールシーズンマウンテンリゾートに向けて ～「選ばれる観光地」となるために～

(株) 白馬アルプスホテル 取締役総支配人
(株) ズクトチエ共同代表

和田 寛



和田 寛氏 経歴 / 1976年東京都生まれ。2000年に東京大学を卒業後、農林水産省、ペイン・アンド・カンパニーを経て、2014年から日本スキー場開発へ入社。白馬観光開発(株)、(株)岩岳リゾートの代表を務め現在に至る。「世界水準のオールシーズンマウンテンリゾート」を目指し様々な企画と運営など多方面で活躍。

宮澤 今日はお忙しい中時間をいただきたいと思います。白馬観光開発や岩岳リゾートで代表を務め、この地の観光産業に精通し、さらに様々なアイデアと実行力で、世界水準のオールマウンテンリゾートを目指して活躍している和田さんにお話を伺いたいと思います。

和田 昨年1月から、白馬アルプスホテルにて、取締役総支配人として様々な取り組みをしてきましたが、1年間小谷村に関わつての感想をお聞かせ願います。

宮澤 和田 梅池で約3年、岩岳で6年働かせていただいているので、ある程度この地域のことは理解できていました。感想と言え、この白馬アルプスホテルは広大なゲレンデとホテルが直結していることが最大のポテンシャルではないかと思えます。また、白馬とは雪質も違うし、滞在施設の規模も大きいことです。

宮澤 白馬アルプスホテルで様々な企画など新しい取り組みをされましたね。

和田 なかなか新しいものを作るのは、コストと時間がかかる

かりますが、既存のものを改良することで低コスト、さらには短時間で実践することもありました。ご存じのとおり、プールの復活にサウナを組み合わせる、ゲレンデが一望できるスペースにラウンジを作る、広大なゲレンデが目玉にあるので、牛や羊が見られる牧場に活用するなど。今春から畜産系の大学を卒業した人材を雇用し、観光と畜産をコラボさせる予定です。

柴田 当時、白馬乗鞍は観光牧場として整備した経過があり、羊と触れあうなど観光面での付加価値を求めた時代もありました。観光面を含めさらに利用できるようにしようか。

和田 昨年11月に、規模は小さいながらも、過去に開催していた「ラム肉祭り」をやってみました。また、ホビーさんのジャージー牛も放牧されています。広いゲレンデを牧場に活用することは難しくありません。特にジャージー牛は、非常に価値があるので、何とか絶やさないように勉強させてもらっています。羊の肉や牛のミルクを、このホテルで利用できるようにすることが理想ですね。

横澤 このホテルの立地と環境、小谷の良さを活用することでお客様にも変化がありましたか。

和田 コルチナさんもそうであるように、大型ホテルとスキー

場がセットであることが最大の魅力であり、武器であります。周辺には、大型ホテルと直結して規模の大きいスキー場が立地しているのは、この小谷村しかありません。(岩岳が今後開発されるが…)

明らかに他の地域とは異なるコンテンツを持っています。山頂へ行くリフトも3年前新設しましたが、輸送能力が低く乗車時間が長いリフトです。昨年は、この特徴を逆手にとり、朝食提供サービスを行うことで、ゆっくりした乗車、これが宿泊サービスへも連携できるので、必然とお金が生まれます。従前からこのホテルは、団体客やツアー客が主な客層でした。現在、OTA(インターネット)での旅行取引の普及などから団体から個人旅行へシフトしています。昨年は、個人客層が増加しました。当然、単価もいいですね。

**観光は面であらう！
～観光客に行政環境はない～**

横澤 白馬と小谷の大きな違いはなんでしょうか。

和田 コルチナさんもそうであるように、お客様を滞在させる能力が高いのは大型のホテルであり、様々なコンテンツを使っている長期滞在に結びつけることができる大型ホテルの存在が白馬との大きな違いです。

宮澤 和田さんは多方面でさまざまな事業を展開されていますが、観光地、特にこの白馬エリアはどうあるべきか、お考えを教えてください。

和田 インバウンド客もそうで

すが、ハクババレーという通称名が浸透されたことで、お客様は、白馬・大町・小谷の区別は全く考えていません。また、移動時間が1時間程度であれば、宿泊拠点から移動する特徴があります。小谷に宿泊、白馬・大町へ出掛ける可能性が高いということです。やはり観光地は行政単位や施設などで区分けせず、エリアとして事業展開していくべきです。失礼ですが、小谷村で独自宣伝するよりは、白馬バレー、白馬エリアで宣伝すべきだと思います。

あと、公共交通のバス、これが大きな課題です。どうしても行政での運行となる傾向です。観光客には行政区割りはないことが現実です。

宮澤 スキー場でもコルチナと白馬乗鞍がある程度協力し合った展開をしています。スキー場同士の連携も必要でしょうか？

和田 互いにホテル直結のスキー場であり、横に長い立地条件ですが、オペレーション費用も協力可能です。苗場スキー場とかぐらスキー場は互いに連携し5000mを超えるロープウェイを設置しました。小谷のスキー場の立地条件からしても、梅池高原も含めたエリア形成は十分投資効果があると思います。とにかく、白馬バレー最大のスキーエリアとして売り出せます。



今後も住み続けられる 観光地づくりを目指す！

横澤 現在、外国人の投資家などが土地・建物などを売却していく流れがありますが、和田さん個人的にはどう思われますか。

和田 白馬でも土地・建物の売却が激しく、さらには地区全体が開発されてきています。地主の意志で売却されるのは仕方ないかなと思います。しかしながら、観光産業に携わって来た方が、今後もこの地で住み続けながら観光業に関わっていくことを目指すことが理想です。過去から築き上げた観光地域であり、外資や投資家にすべて渡すのではなく、計画や事業について、地元も一緒にやって相談や懇談することで良い展開ができると思います。住み続けながら商売ができる地域になることが適切なゴールですね。



宮澤 白馬村の新田地区も地域と話し合っている事業展開でしうか。

和田 そうですね、まず地元へ将来構想（マスタープラン）を提示して、懇談を重ねながら、空き物件の取得や運営を行うことをしてきました。このエリアは、観光産業なしでは住めなくなる可能性が高い。外国人の投資が増えれば、それだけ日本人は減っていくでしょう。物価も上がるし雇用体系も変化します。とにかく地域住民も関わることで、住み続けられる観光地域にしたい

ですし、そのお手伝いやオペレーションをしていくことが、役目であると思います。

横澤 冬は食事難民の課題があります。リゾート地として「食」の重要性はどう考えますか？

和田 まず食や産物はとても必要ですが、この北アルプス地域には、残念ですが『食』で集客できる素材がありません。確かにあれば良いですが、そう簡単に作れないし、時間がかかります。ただ、掘り起こせそうな食材や商品はあります。

手っ取り早いのは、有名なレストランや企業を誘致することです。素材にこだわらなくとも、おいしい食事ができることも観光地では必要です。

軽井沢は有名なレストランが多数進出しているの、観光地で美味しい食事ができるリゾートとして確立し集客に繋がっています。小谷村も行政の声掛けにより有名なレストランが進出してきました。1つの手法として観光地の繁栄につながります。

横澤 現在、小谷エリアは食事提供施設が圧倒的に少ない現状です。これらの解決策は。

和田 飲食店不足は顕著です。理想は、コアエリアに飲食店が固まれば、送迎も含めて効率よいでしょう。しかしながら、この地域の最大の課題は、冬は経営できても、夏シーズンの経営に課題があります。年間を通して経営できないと、企業としては厳しいでしょう。夏場は素材もたくさんあります。逆に夏にしつかり集客できれば年間を通して経営できるレストランにな

るということになります。

あと、6次産業と言いますが、まず3次産業から確立すれば必然と農家へのメリットも生まれます。終点を見据えて取り組みばあらゆる産業が連携したストーリー性のある観光素材になるでしょう。

夏場の踏ん張り雇用確保 「オールシーズン マウンテンリゾートの確立へ」

宮澤 雇用の課題もあります。

オープン時に訪問させていただいた青木湖のカフェには、多くの若い従業員を確保しています。たが、人手不足と言われるこの時期に、多くの従業員を確保していてびっくりしました。しかも若い子ばかりで。

和田 人を雇用するには、安定的に通年雇用することが基本です。募集でも通年雇用を原則としています。実は冬場は暇なので、他の店舗という場合もあります。

冬は基本、従業員がまだ集まりやすい。スキーやスノボ目的の子もまだいます。（過去と比べるとかなり減少しているが）

人出不足ではあるが、しっかりとした雇用環境（通年）を行うこと、それには集客が劣るグリーン期に頑張らないといけないことです。飲食店も同じで、通年営業のため、いかに夏場を踏ん張るかが大事です。夏場の観光コンテンツが必要であり、これがオールシーズンお客様を受け入れるリゾート地になることとなります。

横澤 民宿や旅館は、団体客や合宿を受け入れていたが、人手不足など受け入れてきていない状況があります。

和田 確かに家族経営などの場合、通年営業は大変だと思えます。また、白馬がブランド化されてきたこと、インバウンドの受け入れも盛んになったことから、合宿や団体旅行の需要が減少することも予想されます。

労力がなく、また、営業していない時期があれば、なかなか経営は厳しいのですが、可能であれば小規模経営者がまとまった取り組みをすることも提案したい。オペレーション、人件費なども複数の店舗や宿が同じ形態で営業することで、経費削減、人材の有効利用は可能です。

奥深い小谷は魅力ある地域 「大胆な観光コンテンツを 創り上げる」

宮澤 和田さんから見て、この小谷村の観光、何かご提案や希望ございますか。

和田 小谷村の山はまだまだ魅力があります。白馬の山と比べて奥深い、今のスキー場の更に上を目指すことはおもしろいのです。今の白馬乗鞍のリフトから、より上部へのアクセスできればものすごく価値があがると思います。夏も冬も活用できる、そして国立公園も活用する。民間だけではできないので、当然行政と一緒に作った取り組みになります。小谷の奥深い地形に活用の余地があると思います。

てはいかがでしょうか？

和田 小谷村に限らず観光庁も、ハードとソフトをセットで事業展開するよう指導しますが、まずは形のあるもの、ハードにしっかりとお金をかけることが前提だと思います。ハード施設の使い方は何通りもあります。さらにハード施設は、お金が生まれる（収入見込みがある）ことを前提に考えることが必須です。

小谷村の観光全体を考えれば、当然民間だけではできませんので、行政としての関わりや役割、また、その地域の協力や分担も明確にした上で、大胆な観光コンテンツを描き、形あるものを作るのが望ましいと思います。

宮澤 和田さん今日は、たくさんのお話をお聞かせいただきありがとうございます。ぜひ観光産業発展のためご尽力いただきたい。和田さんの経験と人脈、ネットワーク、またアイデアも活かしながら、誇れる観光地となるようお互い頑張りましょう。



議会活動報告

1 豪雪地帯の安全確保を！

11月8日、長野県内の特別豪雪地帯指定市町村（10市町村）で構成する長野県特別豪雪地帯指定市町村議会協議会において、冬の道路確保、安全確保、除雪体制など豪雪地帯での生活に対する支援や充実を求め、長野県知事及び長野県議会議長へ要望活動を行いました。小谷村でも宮澤議長（協議会副会長）が出席し、豪雪地帯の実情と安心して生活できる環境について要望・懇談してきました。



長野県議会議長への要望

2 白子町議会の訪問！



白子町議会の訪問

10月17日、小谷村の姉妹都市である千葉県白子町議会の皆様が小谷村を訪問し、小谷村議会議員と懇談を行いました。白子町議会からのリクエストもあり、小谷村の活動について研修を行いました。内容は観光地域づくり団体（DMO）、認定こども園について状況を説明しました。説明のあとは、認定こども園小谷保育園と小谷小学校を視察しました。白子町でも小学校の統合の課題もあるとのこと、充実した研修となったとのこと報告をいただきました。

3 三市村議会議員で

合同研修！

糸魚川市・白馬村・小谷村議会議員で組織する「糸魚川市・白馬村・小谷村議会議員連絡協議会」を小谷村で開催しました。今回、株式会社山翠舎の代表取締役 山上浩明氏をお招きし、「遊休不動産の活用・SDGsへの取組」など、今進めている事業などをご講演いただきました。古民家の活用、需要の状況、小谷村での事業展開の提案などもお話いただきました。資源の活用と企業間連携により地域経済の向上を目指す取組としても参考になりました。



（株）山翠舎 山上社長のご講演

4 小谷村の

インフラを考える！



建設業組合との懇談

11月18日に小谷村建設業組合（組合長 郷津健 ㈱姫川プラント代表取締役）と小谷村議会議員との懇談会を開催しました。国や県などからの工事の発注状況や人手不足、資材高騰などの課題をお話いただきました。意見の中で「インバウンド客の増加でこの地域が変化している。チャンスと思つて積極的な政策を！」との意見もありました。また、生活環境について「住宅が全く不足している」と雇用者の住宅確保についても要望されました。その他にも参考にすべき意見をいただきました。可能性も含め議会も行動していきます。

編集後記

新たな年、すがすがしく明るい気分になる。恒例の新年会が盛り上がりつつある。最中「年が明けようが現実には変わらない」と話す方がいた。確かに侵略戦争・米中対立・物価高騰等、世情不安を並べる。確かに新年だからと問題が払拭されるわけではない。

昨年のコメ不足、店頭から米が消えることがあった。米余りなど言われるが、決して安定作物でない。農家さんは、天候に左右されながらも米作りに励む。農家さんは地域の環境と暮らしを守ってくれている貴重な人材であり資源です。

議会だよりでは、村民特集の記事を掲載しています。皆さんにもご協力いただき、親しみやすい紙面を心がけてまいります。

（編集委員 曾根原 恵子）